

特別支援学校（知的障害者）における就労支援に関する研究

今 林 俊 一* ・ 榊 慶太郎**

(2016 年 10 月 25 日 受理)

A study of employment support at special-needs school (for children with intellectual disabilities)

IMABAYASHI Shunichi ・ SAKAKI Keitaro

要約

本研究では、一般就労を目指す知的障害者に焦点を当て、特別支援学校の教育活動の中で実践しているキャリア教育について、特別支援学校教員 120 人を対象に指導内容における認識と取組及び事業所で知的障害者が働く場合に求められる状態像を把握し、学校の取り組みと事業所の求めるものについて比較検討をした。その結果、指導内容における重要度の認識は小学部、中学部、高等部に関係なく共通した認識であり、取組状況については児童生徒の発達段階や学部ごとによる特徴があった。また、指導における優先順位で重要と思っていながらも意識して取り組むことが難しくなっているという現状もみられた。14 事業所を対象にした調査結果では、知的障害者を雇用するときに求めるものは、基本行動に関することなど学校の重要度の高いものと共通することが確認できた。

キーワード：特別支援学校、キャリア教育、知的障害者、一般就労、障害者雇用

* 鹿児島大学教育学系 教授

** 鹿児島大学大学院教育学研究科 大学院生

問題と目的

障害者雇用については、「共生社会」実現の理念の下、障害者雇用率制度等の施策が進められている。全国の特別支援学校高等部を卒業した知的障害者の就職率は、全国平均で31.5%（文部科学省，2016）で、近年緩やかな上昇傾向にある一方、就職している知的障害者の平均勤続年数は7年9か月（厚生労働省，2014）となっている。ここで問題となるのが、離職の原因が「作業能力ではない」とことと、施設利用者本人が「就労支援を望まない」こと、つまり「働く意欲」に課題がある（岩手県総合教育センター，2007）ことや「仕事上の相談者の有無」が離職に影響している（福井・橋本，2015）ことである。

特別支援学校におけるキャリア教育は、自立と社会参加に向けた職業教育の充実のために、平成21年3月告示の特別支援学校高等部学習指導要領（文部科学省，2009）に位置付けられた。現場の先生方から、キャリア教育の意義や重要性は理解できるものの、日々の実践にどのように活かしていけばよいのかに苦慮しているという意見がある（石山・矢野川・宇川・田中・岡田・下山，2015）など、キャリア教育の実践上での課題の一つとして、学校現場におけるキャリア教育の意義の共通理解や実践イメージの具現化が挙げられる。

特別支援学校では、従前から、障害のある児童生徒の社会的自立に向け、小学部段階から日々の教育活動全体を通して、キャリア教育の実践が展開されている。キャリア教育の実践の取組の一つとして、就労体験である「産業現場等における実習（以下現場実習）」がある。多くの特別支援学校高等部では、年間4週間程度を前期と後期の2回に分けて実施しており、生徒は卒業後を見据えた実習先を選定し、現場実習を通して就職につなげていく。特に高等部3年時の現場実習では直接就職につながるケースもあることから、高等部3年時の現場実習までに、いかに「働く意欲」を育てるかが重要となる。また、高等部では学校での職業教育と企業での通年にわたる実習に並行して取り組むデュアルシステムを取り入れた実践の報告がみられるようになってきている。特に実習に向けた事前学習では、働くことに必要な知識や心構え、「働く」ことへの動機づけがなされているが、実習先では学習したことを十分に生かしきれない生徒もいる。菊地（2016）は、森脇（2014a）の「地域協働の中でキャリア発達を促す意味」の論説において、「障害のある生徒が職業的自立を目指すうえで、量的なアプローチとしてのデュアルシステムと質的なアプローチとしてのキャリア発達支援の二つの側面が必要である」と報告している。また、障害者雇用を促進するためには、障害者の働く意欲を高める必要があること、働く意欲を高めるには、生活意欲を高める必要があること、生活意欲を高めるためには、基本行動を確立する必要があることと考えられている（上岡，2013）。なお、基本行動とは、障害があってもなくても社会生活を送る上で最低限身につけておかなければならない行動（上岡，2013）であり、具体的には「基本的生活習慣」や「挨拶・返事・報告・要求・マナーなど」のことである。

キャリア教育やキャリア発達支援における先行研究では指導内容や指導方法に関するものは多いが、教師が指導をするときの意識が指導・支援の成果にどのように影響を及ぼすかという観点

のものは多くはない。石山ら（2015）は、「キャリア教育は、現場の意識改革、変容をねらって打ちだされていることをも意味する」と述べており、教師の実践時の意識について調査することには一定の意義があると考えられる。すなわち、毎日の教育活動の中で実践しているキャリア教育について、教師一人一人の指導内容に対する重要度の認識と取組への意識及び事業所で知的障害者が働く際に求められている状態像の把握が必要であろう。

そこで本研究では、特別支援学校で一般就労を目指す児童生徒を対象に「働く意欲」を育てるための効果的なアプローチの在り方について探る端緒として、学校における教育実践への意識と障害者雇用における事業所のニーズについて比較検討することを目的とする。

方法

1. 調査協力者

K 県立 A 特別支援学校に依頼し、児童生徒に直接指導に関わる教諭・講師・助教諭・実習助手の 125 人（小学部 47 人、中学部 28 人、高等部 50 人）を対象に実施した。回答は、小学部 47 人、中学部 27 人、高等部 46 人から得られ、全体の回収率は 125 人中 120 人で 96%であった。回答者によっては、無回答の項目があったが、測定内容は項目ごとに独立しているため、回答してあるものは全てを有効とした。

事業所については、調査協力校である K 県立 A 特別支援学校の平成 28 年度高等部前期産業現場等における実習先である 21 事業所に依頼した。回答は、14 の事業所から得られ、回収率は 67%であった。

2. 調査期日及び手続き

2016 年 6 月下旬、調査協力校の現場実習期間中に実施した。調査協力校にアンケート用紙を持参して依頼し、管理職を通して各学部職員に配付した。事業所については、現場実習の巡回指導者同行して直接依頼し、同行ができなかった事業所には電話で依頼したのち郵送で配付した。事業所のアンケート用紙の回収は郵送法を用いた。

3. 調査内容

（1）測定内容

特別支援学校に対しては、毎日の教育活動の中で実践しているキャリア教育や指導内容について、教師一人一人が考える「重要度」と「取組に対する意識（取組状況）」、事業所に対しては、「知的障害者が働くときに事業所側が求める力（必要度）」について測定した。

（2）質問項目

特別支援学校と事業所の質問内容は、学校の重要度と事業所の必要度の関係を比較するために、共通の内容にすることとし、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所のキャリアプランニング・マトリックス（試案）観点解説改訂版と日本障害者雇用促進協会障害者職業総合センター（現、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構）が「知的障害者の就労の実現のための指

導課題に関する研究」で事業所を対象に実施した「一般就労を実現するための課題」(2002年8月)を参考にした。キャリアプランニング・マトリックス(試案)に示されている4能力領域16系列に、作業能力領域の作業に関するものの系列を加えた5能力領域17系列に分けて設定し、全59項目とした。キャリアプランニング・マトリックス(試案)に示されている能力領域・系列については、学校現場における「キャリア教育」の正しい理解の必要性など、活用についての課題は指摘されているが、本研究では、キャリアプランニング・マトリックス(試案)そのものの実践的活用を目的とはしておらず、質問項目内容における分類の便宜的観点から能力領域・系列の文言を使用することとした。また、質問用紙には、特別支援学校の回答者にとって項目の内容は毎日の教育実践が児童生徒のキャリア発達支援に関係していることへの意識調査の意図も含めて、5能力領域17系列の記載はせずに内容のみの構成とした。

回答方法選択については、特別支援学校対象の重要度は“重要と思わない=1”から“重要と思う=4”の4件法で、取組状況は“取り組もうとしていない=1”から“意識して取り組もうとしている=4”の4件法で回答を求めた。事業所の必要度については、“なくても差し支えない=1”から“必ず必要である=4”の4件法で回答を求めた。

(3) フェイスシート

特別支援学校用は、性別、教職歴、特別支援学校での教職歴、現任校歴の4項目で構成した。教職歴と特別支援学校での教職歴を分けたのは、知的障害を有する児童生徒の指導の形態は、教科だけでなく教科等を合わせた指導が特徴的であるため、特別支援学校での教職歴が調査結果に影響する可能性があると思われたからである。しかしながら、調査内容について被検者の属性ごとに分析をした結果、教職歴等の違いで大きな差異は認められなかった。

事業所用は、事業所規模(従業員数)、知的障害者の雇用経験の有無の2項目で構成した。事業所規模(従業員数)については、民間企業の法定雇用率2.0%が適用されるのが常用労働者50人以上であることから50人を基準として設定した。

(4) 内容的妥当性の検討

調査協力校の管理職及び特別支援学校教諭を含む現職教員3人、心理専門家1人の協力を得て、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所がキャリア教育として規定している枠組みを参考に内容的に妥当であるかどうかを検討し、質問内容の意図が伝わるかや文章表現の適切さのチェックを受けて完成させた。

結果

1. 被験者の属性

A 特別支援学校教員の属性の内訳をTable 1に示す。性別については学校全体では、男性が55人、女性が65人と女性が10人多かった。学部別では、女性の割合が最も高いのは小学部で、中学部、高等部の順で割合は低くなり、高等部では、男性の割合が高くなっている。教職歴で最も

多いのは、小学部は10～20年未満で38.3%、中学部は20年以上で37.0%、高等部は5～10年未満で34.8%であった。特別支援学校の教職歴では、小学部は10～20年未満が34.0%と最も高く、5～20年未満では57.4%になる。中学部と高等部は共に10年未満で約60%であった。現任校歴では、高等部が他学部と比較して、1年目が37.0%と極めて高く、また、5年以上も32.6%と極めて高い結果であった。

Table 1 A 特別支援学校教員の属性の内訳

項目	分類	全体 n=120 人数 ()は%	小学部 n=47 人数 ()は%	中学部 n=27 人数 ()は%	高等部 n=46 人数 ()は%
性別	男性	55 (45.8)	19 (40.4)	12 (44.4)	24 (52.2)
	女性	65 (54.2)	28 (59.6)	15 (55.6)	22 (47.8)
教職歴	1年未満	10 (8.3)	2 (4.3)	3 (11.1)	5 (10.9)
	1～5年未満	14 (11.7)	7 (14.9)	4 (14.8)	3 (6.5)
	5～10年未満	25 (20.8)	7 (14.9)	2 (7.4)	16 (34.8)
	10～20年未満	36 (30.0)	18 (38.3)	8 (29.6)	10 (21.7)
	20年以上	34 (28.3)	13 (27.7)	10 (37.0)	11 (23.9)
	無回答	1 (0.8)			1 (2.2)
特別支援学校 教職歴	1年未満	12 (10.0)	3 (6.4)	3 (11.1)	6 (13.0)
	1～5年未満	27 (22.5)	9 (19.1)	7 (25.9)	11 (23.9)
	5～10年未満	28 (23.3)	11 (23.4)	6 (22.2)	11 (23.9)
	10～20年未満	29 (24.2)	16 (34.0)	4 (14.8)	9 (19.6)
	20年以上	24 (20.0)	8 (17.0)	7 (25.9)	9 (19.6)
現任校歴	1年目	35 (29.2)	10 (21.3)	8 (29.6)	17 (37.0)
	2～5年目	51 (42.5)	26 (55.3)	11 (40.7)	14 (30.4)
	5年以上	34 (28.3)	11 (23.4)	8 (29.6)	15 (32.6)

事業所の属性の内訳を Table 2 に示す。アンケートへの記入は責任者（店長，所長等）が最も多かった。事業所規模では，法定雇用率が適用される従業員 50 人以上の実習先が 9 事業所（64.3%）で，知的障害者を雇用した経験のある実習先は 11 事業所（78.6%）であった。

Table 2 事業所の属性の内訳

項目	分類	事業所数 ()は%
記入者	責任者(店長, 所長等)	9 (64.3)
	人事・採用担当者	4 (28.6)
	実習担当者	1 (7.1)
事業所規模 (従業員数)	50人未満	5 (35.7)
	50人以上	9 (64.3)
知的障害者を雇用した経験	ある	11 (78.6)
	ない	3 (21.4)

※記入者は，責任者(店長, 所長等)兼実習担当者が2人おり，責任者(店長, 所長等)で計上

2. 特別支援学校の重要度

教師一人一人が思う質問項目の内容重要度について，特別支援学校全体と学部ごとの平均値及び標準偏差を算出した (Table 3)。その結果，特別支援学校全体で最も平均値が高かったのは項目 6『「ありがとう」，「ごめんなさい」を言える』の 3.97 で，最も平均値が低いのは項目 20『いろいろな職業の名前が言える』の 2.66 であった。また，各項目の平均値が最も高い学部と低い学部の差を比べてみると最小は項目 15-(6)『学習中 (仕事) 騒がない』の 0.00 で，最大でも

Table 3 A 特別支援学校の重要度

領域	系列	内容	学校全体n=120 ^注 平均値 S.D.	小学部n=47 ^注 平均値 S.D.	中学部n=27 ^注 平均値 S.D.	高等部n=46 ^注 平均値 S.D.	F値	学部間関係				
人間関係形成能力	人とかかわり、自己理解・他者理解系列	1 実際の体験を通して、自分の得意・不得意が分かる	3.52	0.65	3.51	0.58	3.37	0.73	3.61	0.64	1.16	n.s.
		2 生徒自身が、どういう仕事に向いているかが分かる	3.43	0.68	3.43	0.61	3.37	0.82	3.48	0.65	0.22	n.s.
		3 生徒自身が自分の言動で相手に及ぼす影響について分かる	3.63	0.52	3.57	0.58	3.70	0.46	3.64	0.48	0.64	n.s.
		4 他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容することができる	3.47	0.61	3.41	0.61	3.52	0.63	3.50	0.58	0.34	n.s.
	集団参加、協力・共同系列	5 集団内における自分の役割や関係性の理解について										
		(1) 多くの人々が仕事を分担し、協力していることが分かる	3.47	0.61	3.30	0.66	3.63	0.55	3.54	0.54	3.08	*
		(2) 生産工程で仕事をそれぞれ分担し、責任をもって働いていることが分かる	3.57	0.58	3.44	0.58	3.70	0.53	3.61	0.57	1.91	n.s.
		(3) 他者と協力して活動に取り組むことができる	3.72	0.49	3.73	0.44	3.78	0.50	3.67	0.51	0.41	n.s.
		6 「ありがとう」、「ごめんなさい」を言える	3.97	0.18	3.96	0.20	3.96	0.19	3.98	0.15	0.16	n.s.
		7 仕事（作業）が終わったら報告をすることができる	3.90	0.30	3.94	0.24	3.85	0.36	3.89	0.31	0.70	n.s.
意思表示系列	8 必要に応じた支援を求めることについて											
	(1) 話が分からないときは聞き返すことができる	3.80	0.40	3.77	0.42	3.85	0.36	3.80	0.40	0.39	n.s.	
	(2) 作業が分からないときは尋ねることができる	3.84	0.39	3.85	0.36	3.81	0.47	3.84	0.36	0.08	n.s.	
	(3) 自分の悩みを相談できる人をもつことができる	3.66	0.57	3.64	0.60	3.63	0.62	3.71	0.50	0.25	n.s.	
	9 場や状況に応じた適切な言葉遣いや行動について											
	(1) 身近な人におはよう」、「さようなら」などの挨拶をすることができる	3.88	0.33	3.87	0.33	3.89	0.31	3.87	0.34	0.03	n.s.	
	(2) 場の雰囲気や気分が分かる	3.29	0.62	3.13	0.67	3.33	0.61	3.43	0.54	2.96	n.s.	
	(3) 場や状況に応じた服装、身だしなみができる	3.68	0.48	3.57	0.54	3.74	0.44	3.76	0.43	2.00	n.s.	
	10 電話のマナーが分かる	3.22	0.69	3.23	0.72	3.37	0.67	3.11	0.63	1.26	n.s.	
	情報活用能力	様々な情報への関心、情報収集と活用系列	11 情報収集の方法と活用について									
(1) 職業生活に必要な事柄を調べる方法が分かる			3.16	0.65	3.13	0.61	3.15	0.76	3.20	0.61	0.13	n.s.
(2) 目的地までの情報（バス・電車の経路・運賃調べ）を調べることができる			3.35	0.59	3.32	0.55	3.41	0.62	3.36	0.60	0.19	n.s.
(3) 政治・経済・文化などの情報に興味をもつことができる			2.73	0.76	2.74	0.76	2.89	0.79	2.61	0.74	1.17	n.s.
社会資源の活用とマナー・法や制度の活用系列		12 自動車運転など職業によって資格が必要なことが分かる	3.14	0.69	3.09	0.68	3.22	0.79	3.15	0.62	0.34	n.s.
		13 選挙権や選挙制度のしくみが分かる	2.84	0.77	2.77	0.75	2.89	0.83	2.89	0.76	0.36	n.s.
		14 年金、保険、手帳等の福祉制度のしくみが分かる	2.98	0.72	2.91	0.68	2.93	0.77	3.07	0.73	0.06	n.s.
		15 社会生活上の規範意識について										
		(1) 目印で自分のものが分かる	3.76	0.43	3.85	0.36	3.74	0.44	3.67	0.47	2.04	n.s.
		(2) 自他のものが区別できる	3.90	0.30	3.98	0.14	3.93	0.26	3.80	0.40	4.24	*
将来設計能力	習慣形成系列	(3) 物を無断で持って行かない	3.95	0.22	3.98	0.14	3.93	0.26	3.93	0.25	0.68	n.s.
		(4) 道具を使ったら必ず返す	3.90	0.30	3.94	0.24	3.93	0.26	3.85	0.36	1.13	n.s.
		(5) 順番や交代の意味が分かる	3.88	0.33	3.89	0.31	3.85	0.36	3.87	0.34	0.14	n.s.
		(6) 学習中（仕事）中 騒がない	3.85	0.44	3.85	0.54	3.85	0.36	3.85	0.36	0.00	n.s.
	金銭の扱い、金銭の使い方と管理、消費生活の理解系列	(7) 約束を守る	3.91	0.32	3.91	0.35	3.85	0.36	3.93	0.25	0.59	n.s.
		(8) 決まりや礼儀を守る	3.90	0.33	3.87	0.39	3.85	0.36	3.96	0.20	1.14	n.s.
		(9) 自分勝手な行動をしない	3.87	0.40	3.85	0.51	3.89	0.31	3.89	0.31	0.16	n.s.
		16 所有するお金を計画的に消費することができる	3.55	0.55	3.55	0.54	3.52	0.50	3.57	0.58	0.06	n.s.
		17 労働と報酬の関係が分かる	3.38	0.58	3.38	0.57	3.30	0.71	3.43	0.50	0.48	n.s.
		18 労働時間、賃金、休暇などの基本的労働条件について分かる	3.13	0.63	3.15	0.65	3.00	0.72	3.20	0.54	0.83	n.s.
意思決定能力	夢や希望系列	19 様々な職業が社会や生活に果たしている役割が分かる	3.13	0.67	3.04	0.65	3.19	0.67	3.20	0.68	0.70	n.s.
		20 いろいろな職業の名前が言える	2.66	0.74	2.72	0.74	2.63	0.78	2.61	0.71	0.30	n.s.
		21 仕事の内容と自分の分担する役割が分かる	3.54	0.56	3.47	0.54	3.52	0.63	3.63	0.53	0.99	n.s.
		22 生徒に分担された仕事は、責任をもって最後までやり遂げる	3.78	0.46	3.77	0.42	3.70	0.60	3.83	0.38	0.62	n.s.
	自己選択（決定・責任）系列	23 作業環境下で常に安全を意識することができる	3.74	0.49	3.66	0.59	3.74	0.44	3.83	0.38	1.33	n.s.
		24 健康保持を意識して、健康促進や病気予防に関する知識を身につける	3.43	0.62	3.36	0.60	3.41	0.62	3.52	0.62	0.81	n.s.
		25 トイレが一人で利用できる	3.83	0.47	3.87	0.49	3.78	0.50	3.83	0.43	0.35	n.s.
		26 むやみに休まない（出席・出勤状態がよい）	3.78	0.51	3.66	0.59	3.74	0.58	3.91	0.28	3.05	n.s.
		27 希望や願いの実現方法を考えることができる	3.28	0.66	3.24	0.73	3.26	0.75	3.33	0.51	0.21	n.s.
		28 働くことにやりがいを感じる事ができる	3.64	0.51	3.68	0.47	3.67	0.47	3.59	0.57	0.42	n.s.
作業能力	自己調整系列	29 「生きがい」を考えることができる	3.26	0.66	3.19	0.53	3.30	0.85	3.30	0.66	0.39	n.s.
		30 将来設計に結びつく進路計画を行うことができる	3.18	0.61	3.17	0.56	3.07	0.77	3.24	0.56	0.61	n.s.
		31 実現までの道筋を意識した目標設定ができる	3.18	0.64	3.09	0.54	3.07	0.66	3.33	0.69	2.09	n.s.
		32 実習などの経験に基づき、自分の意思と責任で主体的に進路を選択する力を身につけることができる	3.31	0.67	3.32	0.62	3.19	0.67	3.37	0.70	0.65	n.s.
	振り返り、肯定的な自己評価系列	33 良かったことや改善点を振り返り、次の活動へ活かすことができる	3.58	0.56	3.49	0.54	3.48	0.63	3.72	0.50	2.47	n.s.
		34 実習等を通して、客観的に自己を評価できる	3.33	0.70	3.34	0.66	3.04	0.84	3.48	0.58	3.54	*
		35 実習等を通して、肯定的に自己を評価できる	3.48	0.55	3.51	0.50	3.41	0.62	3.50	0.54	0.33	n.s.
		36 様々なトラブルに対しての対処方法を身に付ける	3.53	0.56	3.49	0.58	3.48	0.63	3.59	0.49	0.45	n.s.
		37 円滑な人間関係の保ち方が分かる	3.63	0.52	3.57	0.54	3.70	0.53	3.65	0.48	0.58	n.s.
		38 作業について										
作業に関する系列	(1) 作業内容が変更した場合、新しい作業内容や手順を覚えることができる	3.64	0.51	3.64	0.48	3.67	0.47	3.62	0.57	0.06	n.s.	
	(2) 道具や機械や材料の準備、後片付けができる	3.71	0.47	3.66	0.47	3.74	0.44	3.76	0.48	0.53	n.s.	
	(3) 道具や機械や材料の管理や手入れができる	3.45	0.71	3.49	0.65	3.52	0.57	3.36	0.82	0.59	n.s.	
	(4) 道具や機械や材料を正しく使うことができる	3.71	0.47	3.62	0.53	3.78	0.42	3.78	0.42	1.67	n.s.	
	(5) 道具や機械や材料を大切に使うことができる	3.73	0.48	3.70	0.46	3.74	0.44	3.76	0.52	0.15	n.s.	
	(6) 道具や機械や材料を注意して運ぶことができる	3.69	0.46	3.62	0.49	3.74	0.44	3.73	0.44	0.93	n.s.	

*p<.05

注 項目の回答についての最大数であり、実際は学校全体：116-120人、小学部：43-47人、中学部：27人、高等部：45-46人である。

項目 34「実習等を通して、客観的に自己を評価できる」の 0.44 という結果であった。

重要度の認識について、学部による差があるかどうか（重要度の学部間差）を検討するために全ての項目の分散分析を行った。全 59 項目のうち約 95% の 56 項目で主効果が認められず、約 5% に当たる 3 項目で主効果が認められた。これらのことから、特別支援学校の重要度について学部間差はなく、重要度の認識の程度は、おおむね学部を問わず共通であると言える。なお、主効果が認められた 3 項目について学部間の関係を明らかにするために多重比較をした結果、項目 5-(1)「多くの人々が仕事を分担し、協力していることが分かる」($F(2,116) = 3.08, p < .05$) は、中学部の平均値が最も高かったが、学部間における有意差は認められなかった。項目 15-(2)「社会上の規範意識について：自他のものが区別できる」($F(2,117) = 4.24, p < .05$) は、小学部の平均値が最も高く、小学部と高等部の間で有意差があった。項目 34「実習等を通して、客観的に自己を評価できる」($F(2,116) = 3.54, p < .05$) は、高等部の平均値が最も高く、最も低かったのは中学部で、中学部と高等部との間で有意差があった。

5 つの領域間の特徴としては、情報活用能力の領域に平均値が低い項目が多く、平均値が 2 点台である 4 項目全てが含まれることから、他の 4 領域と比べて平均値のレンジが大きかった。

人間関係形成能力の領域については、特別支援学校全体の平均値が 3.22 ～ 3.97 と全体的に高めであった。特に意思表示の系列の 5 項目は、平均値が 3.66 ～ 3.97 と非常に高い水準で、学部間のレンジも 0.1 未満と学部間における差が小さかった。挨拶・清潔・身だしなみ・場に応じた言動の系列は、項目 9-(2)「場の雰囲気分かる」の平均値が 3.29、項目 10「電話のマナーが分かる」の平均値が 3.22 と他項目の内容と比べ低かった。

情報活用能力の領域については、様々な情報への関心、情報収集と活用の系列の平均値は 2.73 ～ 3.35 と低い水準であった。一方、社会資源の活用とマナー、法や制度の活用の系列は、項目 15「社会生活上の規範意識について」の下位 9 項目の平均値が 3.76 ～ 3.95 と極めて高い水準であった。

将来設計能力の領域については、特別支援学校全体の平均値は 3.18 ～ 3.83 であり、習慣形成の系列が他の系列と比べて平均値が高い傾向であった。

意思決定能力の領域については、特別支援学校全体の平均値は 3.18 ～ 3.63 であった。項目 34 と項目 35 については、「自己の評価」を客観的にできるか肯定的にできるかの違いであったが、全ての学部で肯定的にできる方の平均値が高かった。また、前述のとおり項目 34 だけ主効果が認められ、多重比較の結果、小学部と中学部、小学部と高等部の間では有意差はないが、中学部と高等部で有意差があった。

作業能力の領域については、特別支援学校全体での平均値は 3.45 ～ 3.73 でやや高い水準であった。

3. 特別支援学校の取組状況

毎日の教育活動においてキャリア教育の各種能力を育成する取組に対する意識について、特別支援学校全体と学部ごとの平均値及び標準偏差を算出した (Table 4)。その結果、特別支援学校全体で最も平均値が高かったのは項目 6『「ありがとう」、「ごめんなさい」を言える』の 3.85

Table 4 A 特別支援学校の取組状況

領域	系列	内容	学校全体n=119 ^{注1}		小学部n=46 ^{注1}		中学部n=27 ^{注1}		高等部n=46 ^{注1}		F値	学部間関係 ^{注2}
			平均値	S.D.	平均値	S.D.	平均値	S.D.	平均値	S.D.		
人間関係形成能力	人とかかわり、自己理解・他者理解系列	1 実際の体験を通して、自分の得意・不得意が分かる	3.08	0.77	2.89	0.77	3.19	0.72	3.22	0.75	2.43 n.s.	
		2 生徒自身が、どういう仕事に向いているかが分かる	2.86	0.79	2.60	0.80	2.85	0.76	3.11	0.73	4.93 *	I 小<高
		3 生徒自身が自分の言動で相手に及ぼす影響について分かる	3.17	0.73	3.11	0.71	3.19	0.72	3.23	0.73	0.27 n.s.	
		4 他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容することができる	3.11	0.73	3.11	0.80	3.15	0.65	3.09	0.72	0.06 n.s.	
	集団参加、協力・共同系列	5 集団内における自分の役割や関係性の理解について (1) 多くの人が仕事を分担し、協力していることが分かる	3.01	0.76	2.76	0.85	3.30	0.66	3.09	0.65	4.88 *	IV 小<中
		(2) 生産工程で仕事をそれぞれ分担し、責任をもって働いていることが分かる	3.03	0.84	2.66	0.88	3.30	0.76	3.22	0.72	7.45 *	II 小<中, 小<高
		(3) 他者と協力して活動に取り組むことができる	3.35	0.68	3.24	0.67	3.41	0.73	3.41	0.65	0.82 n.s.	
	意思表現系列	6 「ありがとう」、「ごめんなさい」を言える	3.85	0.40	3.83	0.43	3.89	0.31	3.85	0.42	0.20 n.s.	
		7 仕事(作業)が終わったら報告をすることができる	3.65	0.59	3.38	0.71	3.81	0.39	3.83	0.43	8.96 *	II 小<中, 小<高
		8 必要に応じた支援を求めることについて (1) 話が分からないときは聞き返すことができる (2) 作業が分からないときは尋ねることができる (3) 自分の悩みを相談できる人をもつことができる	3.47 3.48 3.08	0.66 0.67 0.84	3.27 3.24 2.76	0.68 0.76 0.82	3.52 3.63 3.15	0.63 0.48 0.89	3.64 3.62 3.36	0.60 0.61 0.70	3.92 * 4.65 * 6.37 *	I 小<高 II 小<中, 小<高 I 小<高
情報活用能力	挨拶・清潔・身だしなみ、場に応じた言動系列	9 場や状況に応じた適切な言葉遣いや行動について (1) 身近な人に「おはよう」、「さようなら」などの挨拶をすることができる	3.78	0.49	3.80	0.40	3.74	0.64	3.78	0.46	0.14 n.s.	
		(2) 場の雰囲気や分かる	3.01	0.71	2.73	0.68	3.19	0.68	3.18	0.68	5.90 *	II 小<中, 小<高
		(3) 場や状況に応じた服装、身だしなみができる	3.55	0.63	3.29	0.72	3.74	0.44	3.69	0.55	6.66 *	II 小<中, 小<高
		(4) 電話のマナーが分かる	2.39	0.89	2.04	0.92	2.44	0.92	2.70	0.72	6.65 *	I 小<高
	様々な情報への関心、情報収集と活用系列	10 情報収集の方法と活用について (1) 職業生活に必要な事柄を調べる方法が分かる (2) 目的地までの情報(バス・電車の経路・運賃調べ)を調べることができる	2.47 2.46	0.90 0.91	2.16 2.04	0.97 0.92	2.41 2.38	0.99 0.92	2.80 2.91	0.61 0.65	6.51 * 12.41 *	I 小<高 III 小<高, 中<高
		(3) 政治・経済・文化などの情報に興味をもつことができる	2.04	0.83	1.82	0.85	2.11	0.96	2.22	0.66	2.77 n.s.	
		11 情報収集の方法と活用について (1) 職業生活に必要な事柄を調べる方法が分かる (2) 目的地までの情報(バス・電車の経路・運賃調べ)を調べることができる	2.26 1.98 2.01	0.96 0.86 0.87	1.87 1.57 1.61	0.98 0.72 0.80	2.26 1.93 1.96	1.00 0.86 0.84	2.65 2.43 2.42	0.73 0.78 0.75	8.51 * 13.32 * 11.41 *	I 小<高 III 小<高, 中<高 I 小<高
	社会資源の活用とマナー、法や制度の活用系列	12 自動車運転など職業によって資格が必要なことが分かる	2.26	0.96	1.87	0.98	2.26	1.00	2.65	0.73	8.51 *	I 小<高
		13 選挙権や選挙制度のしくみが分かる	1.98	0.86	1.57	0.72	1.93	0.86	2.43	0.78	13.32 *	III 小<高, 中<高
		14 年金、保険、手帳等の福祉制度のしくみが分かる	2.01	0.87	1.61	0.80	1.96	0.84	2.42	0.75	11.41 *	I 小<高
将来設計能力	金銭の扱い、金銭の使い方と管理、消費生活の理解系列	15 社会生活上の規範意識について (1) 目印で自分のものが分かる (2) 自他のものが区別できる (3) 物を無断で持って行かない (4) 道具を使ったら必ず返す (5) 順番や交代の意味が分かる (6) 学習中(仕事)中 騒がない (7) 約束を守る (8) 決まりや礼儀を守る (9) 自分勝手な行動をしない	3.61 3.69 3.75 3.71 3.73 3.69 3.75 3.69 3.63	0.58 0.51 0.49 0.56 0.52 0.53 0.47 0.50 0.59	3.74 3.78 3.78 3.70 3.76 3.63 3.74 3.63 3.57	0.49 0.46 0.51 0.66 0.67 0.60 0.59 0.56 0.65	3.48 3.63 3.48 3.56 3.57 3.80 3.82 3.85 3.59	0.63 0.48 0.49 0.49 0.57 0.63 0.56 0.56 0.62	3.57 3.63 3.60 3.80 3.80 3.80 3.82 3.76 3.71	0.61 0.57 0.45 0.40 0.45 0.45 0.38 0.43 0.50	1.94 n.s. 1.23 n.s. 1.79 n.s. 1.73 n.s. 2.07 n.s. 2.18 n.s. 1.41 n.s. 0.73 n.s. 0.70 n.s.	
		16 所有するお金を計画的に消費することができる	2.60	0.88	2.22	0.79	2.59	0.78	2.98	0.87	9.43 *	I 小<高
		17 労働と報酬の関係が分かる	2.68	0.92	2.29	1.05	2.74	0.75	3.02	0.71	8.13 *	I 小<高
	はたらくより働くことの意味系列	18 労働時間、賃金、休暇などの基本的労働条件について分かる	2.30	0.95	1.89	0.95	2.22	0.96	2.74	0.74	10.63 *	III 小<高, 中<高
		19 様々な職業が社会や生活に果たしている役割が分かる	2.49	0.91	2.20	0.96	2.44	0.87	2.80	0.77	5.41 *	I 小<高
		20 いろいろな職業の名前が言える	2.34	0.85	2.31	0.91	2.15	0.80	2.48	0.77	1.33 n.s.	
	習慣形成系列	21 仕事の内容と自分の分担する役割が分かる	3.12	0.84	2.91	0.96	3.11	0.79	3.33	0.66	2.87 n.s.	
		22 生徒に分担された仕事は、責任をもって最後までやり遂げる	3.57	0.62	3.42	0.68	3.74	0.44	3.61	0.61	2.45 n.s.	
		23 作業環境下で常に安全を意識することができる	3.45	0.77	3.20	0.93	3.59	0.56	3.61	0.61	4.02 *	I 小<高
意思決定能力	夢や希望系列	24 健康保持を意識して、健康促進や病気予防に関する知識を身につける	3.07	0.82	2.71	0.86	3.19	0.79	3.35	0.67	7.96 *	II 小<中, 小<高
		25 トイレが一人で利用できる	3.67	0.65	3.72	0.61	3.62	0.74	3.65	0.63	0.23 n.s.	
		26 むやみに休まない(出席・出勤状態がよい)	3.41	0.84	3.20	0.93	3.35	0.92	3.65	0.60	3.52 *	I 小<高
	生きがい・やりがい系列	27 希望や願いの実現方法を考えることができる	2.78	0.88	2.45	0.96	2.69	0.95	3.13	0.58	7.45 *	I 小<高
		28 働くことにやりがいを感じる事ができる	3.16	0.84	2.84	0.98	3.33	0.67	3.37	0.67	5.59 *	II 小<中, 小<高
		29 「生きがい」を考えることができる	2.68	0.90	2.36	0.88	2.81	0.98	2.91	0.78	4.79 *	I 小<高
	進路計画系列	30 将来設計に結びつく進路計画を行うことができる	2.58	0.88	2.18	0.91	2.70	0.76	2.89	0.77	8.40 *	II 小<中, 小<高
		31 実現までの道筋を意識した目標設定ができる	2.69	0.86	2.34	0.82	2.52	0.79	3.13	0.74	11.96 *	III 小<高, 中<高
		32 実習などの経験を基に、自分の意思と責任で主体的に進路を選択する力を身につけることができる	2.68	0.93	2.18	0.91	2.78	0.83	3.11	0.76	13.70 *	II 小<中, 小<高
作業能力	自己選択(決定・責任)系列	33 良かったことや改善点を振り返り、次の活動へ活かすことができる	3.30	0.82	3.00	0.88	3.22	0.83	3.63	0.60	7.51 *	I 小<高
		34 実習等を通して、客観的に自己を評価できる	2.89	0.92	2.34	0.90	2.96	0.79	3.37	0.70	18.10 *	II 小<中, 小<高
		35 実習等を通して、肯定的に自己を評価できる	3.00	0.87	2.45	0.92	3.26	0.64	3.37	0.64	18.08 *	II 小<中, 小<高
	自己調整系列	36 様々なトラブルに対しての対処方法を身に付ける	3.03	0.78	2.77	0.82	2.96	0.74	3.30	0.66	5.75 *	I 小<高
		37 円滑な人間関係の保ち方が分かる	3.28	0.71	3.11	0.78	3.37	0.67	3.39	0.64	1.98 n.s.	
		38 作業について (1) 作業内容が変更した場合、新しい作業内容や手順を覚えることができる	3.31	0.77	2.93	0.86	3.56	0.57	3.53	0.62	9.79 *	II 小<中, 小<高
	作業に関する系列	(2) 道具や機械や材料の準備、後片付けができる	3.49	0.74	3.27	0.89	3.63	0.55	3.62	0.61	3.21 *	
		(3) 道具や機械や材料の管理や手入れができる	2.99	0.91	2.59	0.94	3.42	0.63	3.13	0.86	8.73 *	II 小<中, 小<高
		(4) 道具や機械や材料を正しく使うことができる	3.47	0.74	3.14	0.87	3.78	0.42	3.60	0.61	8.49 *	II 小<中, 小<高
		(5) 道具や機械や材料を大切に使うことができる	3.46	0.77	3.25	0.91	3.70	0.53	3.51	0.69	3.18 *	IV 小<中
		(6) 道具や機械や材料を注意して選べることができる	3.39	0.77	3.11	0.91	3.74	0.44	3.44	0.68	6.14 *	IV 小<中

*p<.05

注1 項目の回答についての最大数であり、実際は学校全体:115-119人、小学部:44-46人、中学部:26-27人、高等部:44-46人である。

注2 学部間関係のI, II, III, IVは、多重比較の結果をタイプ分けしたものである。

で、最も平均値が低いのは項目 13「選挙権や選挙制度のしくみが分かる」の 1.98 であった。また、各項目の平均値が最も高い学部と低い学部の差を比べてみると最小は項目 4「他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容することができる」と項目 9-(1)『身近な人に「おはよう」、「さようなら」などの挨拶をすることができる』の 0.06 で、最大は項目 34「実習等を通して、客観的に自己を評価できる」の 1.03 という結果であった。

取組状況について、学部による差があるかどうか（取組状況の学部間差）を検討するために全ての項目の分散分析を行った。全 59 項目のうち約 64% の 38 項目で主効果が認められ、多くの項目で取組状況の意識には学部間で差があると言えよう。主効果の認められた 38 項目について多重比較をした結果、学部間の関係は項目 38-(2)「作業について：道具や機械や材料の準備、後片付けができる」以外の 37 項目は有意差の状態により Figure 1 のように 4 つの型に分けることができた。最も多いのは、小学部—中学部—高等部と学部が上がるに連れて取組状況は上がり、小学部と中学部、中学部と高等部の間では有意差はないが、小学部と高等部の間で有意差がある I 型で 16 項目が該当した。該当する項目の特徴としては、自立した生活を行う上で必要であるが、理解力と思考力を伴う内容のため段階を経て身につける必要があるものが多い。2 番目に多いのは、小学部段階ではあまり取組状況は高くはないが、中学部になってから力を入れており、中学部と高等部では有意差はなく、小学部と中学部の間で有意差がある II 型で 14 項目が該当した。該当する項目の特徴としては、作業に関する内容や人間関係でうまくやっていくために必要な内容が多い。III 型の取組状況は、小学部—中学部の段階では緩やかな上昇傾向で、高等部になってから上がっており、小学部と中学部では有意差はないが、中学部と高等部の間で有意差があり、4 項目が該当した。該当する項目の特徴としては、在学中は直面する機会は少なく、卒業後自立した生活を送るときに、社会人として身につけていた方がよい内容である。また、高等部でも平均値が他の内容に比べて 3 点前後とやや低めであった。IV 型は、小学部段階ではあまり取組状況は高くはないが、中学部は特に力を入れており、中学部の平均値が最も高い。中学部と高等部、小学部と高等部の間では有意差はないが、小学部と中学部の間で有意差があり、3 項目が該当した。該当する項目の特徴としては、作業など集団の中で他人に迷惑をかけないための内容である。I

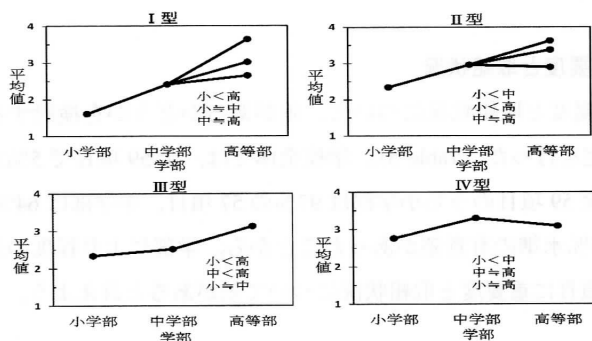


Figure 1 取組状況についての学部間関係（タイプ分け）

型からIV型までのそれぞれに該当する項目は Table 4 の学部間関係に示す。

5つの領域間の特徴としては、情報活用能力の領域が他の4つの領域と比べて、全59項目の中で、平均値の低い下位6項目を含むことから平均値のレンジが大きかった。

人間関係形成能力の領域については、人とのかかわり、自己理解・他者理解の系列で、項目2「生徒自身が、どういう仕事に向いているのかが分かる」のみ学部間の主効果が認められ ($F(2,115) = 4.93, p < .05$)、他の3つの系列と比べると主効果が認められない項目が多く、平均値も中程度の水準であった。また、項目6『「ありがとう」、「ごめんなさい」を言える』と項目9-1(1)『身近な人に「おはよう」、「さようなら」などの挨拶をすることができる』は、平均値がそれぞれ3.85、3.78と極めて高く、主効果は認められなかった。

情報活用能力の領域については、社会資源の活用とマナー、法や制度の活用の系列で項目15「社会生活上の規範意識について」の下位の9項目全てにおいて、平均値が3.61以上と極めて高く、主効果が認められなかった。一方、様々な情報への関心、情報収集と活用の系列と金銭の扱い、金銭の使い方と管理、消費生活の理解の系列は、全ての項目の平均値が2点台と低い水準で、多くの項目で学部間の主効果は認められた。

将来設計能力の領域では、全8項目のうち7項目で主効果が認められ、多重比較の結果7項目全てにおいて小学部と高等部の間で有意差があり、そのうち3項目は小学部と中学部の間にも有意差があった。主効果が認められなかった項目25「トイレが一人で利用できる」は基本行動に当たる内容で、特別支援学校全体の平均値は3.67と高い水準であった。

意思決定能力の領域では、全7項目のうち6項目で主効果が認められ、多重比較の結果6項目全てに小学部と高等部の間で有意差があった。そのうち3項目は小学部と中学部の間でも有意差があり、1項目は中学部と高等部の間で有意差があった。主効果が認められなかった項目37「円滑な人間関係の保ち方が分かる」の特別支援学校全体の平均値は3.28と中程度の水準であった。

作業能力の領域では、分散分析の結果6項目全てにおいて主効果が認められた。多重比較による学部間比較では、6項目中5項目で小学部と中学部、3項目で小学部と高等部で有意差があり、中学部と高等部では有意差はなかった。また、平均値は6項目全てにおいて中学部が最も高い結果であった。

4. 特別支援学校の重要度と取組状況

特別支援学校の重要度と取組状況について、差があるかどうかを検討するために全ての項目で、対応のあるt検定を行った (Table 5)。学校全体では、全59項目で5%水準の有意差があった。学部ごとでは、全59項目のうち小学部は97%の57項目、中学部は64%の38項目、高等部は73%の43項目で5%水準の有意差があったことから、学部により程度の差はあるものの、全ての学部で、多くの項目に重要度と取組状況について差があると言えよう。

Table 5 A 特別支援学校（重要度一取組状況）

領域	系列	内容	学校全体 n=119 ²			小学部 n=46 ²			中学部 n=27 ²			高等部 n=46 ²		
			重要度 (S.D.)	取組状況 (S.D.)	t値 (相関係数)	重要度 (S.D.)	取組状況 (S.D.)	t値 (相関係数)	重要度 (S.D.)	取組状況 (S.D.)	t値 (相関係数)	重要度 (S.D.)	取組状況 (S.D.)	t値 (相関係数)
人との かわり、自 己理 解・他 者理解 系列	1	実際の体験を通して、自分の得意・不得意が分かる	3.52 (0.65)	3.08 (0.77)	6.30 *	3.51 (0.58)	2.89 (0.77)	5.83 *	3.37 (0.73)	3.19 (0.72)	1.15 n.s.	3.61 (0.64)	3.22 (0.75)	3.89 *
	2	生徒自身が、どうい仕事に向いているかが分かる	3.43 (0.68)	2.86 (0.79)	7.22 *	3.43 (0.61)	2.60 (0.80)	5.95 *	3.37 (0.82)	2.85 (0.76)	2.88 *	3.48 (0.65)	3.11 (0.73)	3.53 *
	3	生徒自身が自分の言動で相手に及ぼす影響について分かる	3.63 (0.52)	3.17 (0.73)	7.14 *	3.57 (0.58)	3.11 (0.71)	4.53 *	3.70 (0.46)	3.19 (0.72)	3.85 *	3.64 (0.48)	3.23 (0.73)	3.92 *
	4	他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容することができる	3.47 (0.61)	3.11 (0.73)	5.22 *	3.41 (0.61)	3.11 (0.80)	2.46 *	3.52 (0.63)	3.15 (0.65)	2.80 *	3.50 (0.58)	3.09 (0.72)	3.91 *
人間関係 形成能力 系列	5	集団内における自分の役割や関係性の理解について												
	(1)	多くの人が仕事を分担し、協力していることが分かる	3.47 (0.61)	3.01 (0.76)	6.52 *	3.30 (0.66)	2.76 (0.85)	4.03 *	3.63 (0.55)	3.30 (0.66)	2.79 *	3.54 (0.54)	3.09 (0.65)	4.49 *
	(2)	生産工程で仕事をそれぞれ分担し、責任をもって働いていることが分かる	3.57 (0.58)	3.03 (0.84)	7.80 *	3.44 (0.58)	2.66 (0.88)	6.05 *	3.70 (0.53)	3.30 (0.76)	3.05 *	3.61 (0.57)	3.22 (0.72)	4.32 *
	(3)	他者と協力して活動に取り組むことができる	3.72 (0.49)	3.35 (0.68)	6.24 *	3.73 (0.44)	3.24 (0.67)	5.00 *	3.78 (0.50)	3.41 (0.73)	2.60 *	3.67 (0.51)	3.41 (0.65)	3.08 *
意思表 現系列	6	「ありがとう」、「ごめんなさい」を言える	3.97 (0.18)	3.85 (0.40)	3.45 *	3.96 (0.20)	3.83 (0.43)	2.21 *	3.96 (0.19)	3.89 (0.31)	1.44 n.s.	3.98 (0.15)	3.85 (0.42)	2.21 *
	7	仕事（作業）が終わったら報告をすることができる	3.90 (0.30)	3.65 (0.59)	4.59 *	3.94 (0.24)	3.38 (0.71)	5.36 *	3.85 (0.36)	3.81 (0.39)	0.57 n.s.	3.89 (0.31)	3.83 (0.43)	1.00 n.s.
	8	必要に応じた支援を求めることについて												
	(1)	話が分からないときは聞き返すことができる	3.80 (0.40)	3.47 (0.66)	5.85 *	3.77 (0.42)	3.27 (0.68)	5.18 *	3.85 (0.36)	3.52 (0.63)	2.79 *	3.80 (0.40)	3.64 (0.60)	2.07 *
挨拶・ 清潔・身 だしな み、場 に応じ た言 動 系列	(2)	作業が分からないときは尋ねることができる	3.84 (0.39)	3.48 (0.67)	5.75 *	3.85 (0.36)	3.24 (0.76)	5.36 *	3.81 (0.47)	3.63 (0.48)	1.55 n.s.	3.84 (0.36)	3.62 (0.61)	2.66 *
	(3)	自分の悩みを相談できる人をもつことができる	3.66 (0.57)	3.08 (0.84)	7.23 *	3.64 (0.60)	2.76 (0.82)	6.38 *	3.63 (0.62)	3.15 (0.89)	2.80 *	3.71 (0.50)	3.36 (0.70)	3.21 *
	9	場や状況に応じた適切な言葉遣いや行動について												
	(1)	身近な人に「おはよう」、「さようなら」などの挨拶をすることが出来る	3.88 (0.33)	3.78 (0.49)	2.23 *	3.87 (0.33)	3.80 (0.40)	1.43 n.s.	3.89 (0.31)	3.74 (0.64)	1.16 n.s.	3.87 (0.34)	3.78 (0.46)	1.27 n.s.
様々な 情報へ の関 心、情 報集 めと活 用 系列	(2)	場の雰囲気分かる	3.29 (0.62)	3.01 (0.71)	4.06 *	3.13 (0.67)	2.73 (0.68)	3.21 *	3.33 (0.61)	3.19 (0.68)	0.83 n.s.	3.43 (0.54)	3.18 (0.68)	2.60 *
	(3)	場や状況に応じた服装、身だしなみができる	3.68 (0.48)	3.55 (0.63)	3.21 *	3.57 (0.54)	3.29 (0.72)	3.75 *	3.74 (0.44)	3.74 (0.44)	0.00 n.s.	3.76 (0.43)	3.69 (0.55)	1.27 n.s.
	10	電話のマナーが分かる	3.22 (0.69)	2.39 (0.89)	9.08 *	3.23 (0.72)	2.04 (0.92)	7.52 *	3.37 (0.67)	2.44 (0.92)	4.83 *	3.11 (0.63)	2.70 (0.72)	3.75 *
	11	情報収集の方法と活用について												
社会資 源の活 用とマ ナー、 法や制 度の活 用 系列	(1)	職業生活に必要な事項を調べる方法が分かる	3.16 (0.65)	2.47 (0.90)	8.73 *	3.13 (0.61)	2.16 (0.97)	6.57 *	3.15 (0.76)	2.41 (0.99)	4.73 *	3.20 (0.61)	2.80 (0.61)	4.09 *
	(2)	目的地までの情報（バス・電車の経路・運賃調べ）を調べることができる	3.35 (0.59)	2.46 (0.91)	10.21 *	3.32 (0.55)	2.04 (0.92)	8.51 *	3.41 (0.62)	2.38 (0.92)	5.44 *	3.56 (0.60)	2.91 (0.65)	4.56 *
	(3)	政治・経済・文化などの情報に興味をもつことができる	2.73 (0.76)	2.04 (0.83)	7.82 *	2.74 (0.76)	1.82 (0.85)	6.28 *	2.89 (0.79)	2.11 (0.96)	3.61 *	2.61 (0.74)	2.22 (0.66)	3.72 *
	12	自動車運転など職業によって資格が必要なことが分かる	3.14 (0.69)	2.26 (0.96)	10.14 *	3.09 (0.68)	1.87 (0.98)	8.04 *	3.22 (0.79)	2.26 (1.00)	5.11 *	3.15 (0.62)	2.65 (0.73)	4.91 *
情報活 用能力 系列	13	選挙権や選挙制度のしくみが分かる	2.84 (0.77)	1.98 (0.86)	10.44 *	2.77 (0.75)	1.57 (0.72)	9.10 *	2.89 (0.83)	1.93 (0.86)	4.91 *	2.89 (0.76)	2.43 (0.78)	4.77 *
	14	年金、保険、手帳等の福祉制度のしくみが分かる	2.98 (0.72)	2.01 (0.87)	11.93 *	2.91 (0.68)	1.61 (0.80)	9.01 *	2.93 (0.77)	1.96 (0.84)	5.57 *	3.07 (0.73)	2.42 (0.75)	6.63 *
	15	社会生活上の規範意識について												
	(1)	目印で自分のものが分かる	3.76 (0.43)	3.61 (0.58)	3.11 *	3.85 (0.36)	3.74 (0.49)	2.21 *	3.74 (0.44)	3.48 (0.63)	2.27 *	3.67 (0.47)	3.57 (0.61)	1.22 n.s.
金銭の扱 い、金銭 の使い 方と管 理、消費 生活の 理解 系列	(2)	自他ものが区別できる	3.90 (0.30)	3.69 (0.51)	4.56 *	3.98 (0.14)	3.78 (0.46)	2.93 *	3.93 (0.26)	3.63 (0.48)	3.31 *	3.80 (0.40)	3.63 (0.57)	2.07 *
	(3)	物を無断で持って行かない	3.95 (0.22)	3.75 (0.49)	4.59 *	3.98 (0.14)	3.78 (0.51)	2.66 *	3.93 (0.26)	3.59 (0.49)	3.12 *	3.93 (0.25)	3.80 (0.45)	2.21 *
	(4)	道具を使ったら必ず返す	3.90 (0.30)	3.71 (0.56)	4.01 *	3.94 (0.24)	3.70 (0.66)	2.54 *	3.93 (0.26)	3.56 (0.57)	3.91 *	3.85 (0.36)	3.80 (0.40)	0.81 n.s.
	(5)	順番や交代の意味が分かる	3.88 (0.33)	3.73 (0.52)	3.42 *	3.89 (0.31)	3.76 (0.47)	1.96 n.s.	3.85 (0.36)	3.56 (0.63)	3.31 *	3.87 (0.34)	3.80 (0.45)	1.00 n.s.
はたらく よび、役 割の理 解とこ の意 義 系列	(6)	学習中（仕事）中騒がない	3.85 (0.44)	3.69 (0.53)	3.57 *	3.85 (0.54)	3.63 (0.60)	2.88 *	3.85 (0.36)	3.59 (0.56)	3.02 *	3.85 (0.36)	3.82 (0.38)	0.37 n.s.
	(7)	約束を守る	3.91 (0.32)	3.75 (0.47)	4.24 *	3.91 (0.35)	3.74 (0.49)	3.08 *	3.85 (0.36)	3.63 (0.55)	2.28 *	3.93 (0.25)	3.82 (0.38)	1.95 n.s.
	(8)	決まりや礼儀を守る	3.90 (0.33)	3.69 (0.50)	5.11 *	3.87 (0.39)	3.63 (0.57)	3.38 *	3.85 (0.36)	3.67 (0.47)	1.99 n.s.	3.96 (0.20)	3.76 (0.43)	3.32 *
	(9)	自分勝手な行動をしない	3.87 (0.40)	3.63 (0.59)	4.84 *	3.85 (0.51)	3.57 (0.65)	3.62 *	3.89 (0.31)	3.59 (0.62)	2.53 *	3.89 (0.31)	3.71 (0.50)	2.23 *
様々な 職業が 社会や 生活に 果たし ている 役割が 分かる 系列	16	所有するお金を計画的に消費することができる	3.55 (0.55)	2.60 (0.88)	11.44 *	3.55 (0.54)	2.22 (0.79)	10.01 *	3.52 (0.50)	2.59 (0.78)	5.51 *	3.57 (0.58)	2.98 (0.87)	5.13 *
	17	労働と報酬の関係が分かる	3.38 (0.58)	2.68 (0.92)	8.71 *	3.38 (0.57)	2.29 (1.05)	7.42 *	3.30 (0.71)	2.74 (0.75)	4.14 *	3.43 (0.50)	3.02 (0.71)	3.91 *
	18	労働時間、賃金、休暇などの基本的労働条件について分かる	3.13 (0.63)	2.30 (0.95)	9.00 *	3.15 (0.65)	1.89 (0.95)	7.48 *	3.00 (0.72)	2.22 (0.96)	3.99 *	3.20 (0.54)	2.74 (0.74)	4.49 *
	19	様々な職業が社会や生活に果たしている役割が分かる	3.13 (0.67)	2.49 (0.91)	8.02 *	3.04 (0.65)	2.20 (0.96)	5.32 *	3.19 (0.67)	2.44 (0.87)	4.73 *	3.20 (0.68)	2.80 (0.77)	4.32 *
はたらく よび、役 割の理 解とこ の意 義 系列	20	いろいろな職業の名前が言える	2.66 (0.74)	2.34 (0.85)	4.63 *	2.72 (0.74)	2.31 (0.91)	3.44 *	2.63 (0.78)	2.15 (0.80)	3.12 *	2.61 (0.71)	2.48 (0.77)	1.43 n.s.
	21	仕事の内容と自分の分担する役割が分かる	3.54 (0.56)	3.12 (0.84)	6.50 *	3.47 (0.54)	2.91 (0.96)	4.23 *	3.52 (0.63)	3.11 (0.79)	3.33 *	3.63 (0.53)	3.33 (0.66)	4.04 *
	22	生徒に分担された仕事は、責任をもって最後までやり遂げる	3.78 (0.46)	3.57 (0.62)	3.89 *	3.77 (0.42)	3.42 (0.68)	3.54 *	3.70 (0.60)	3.74 (0.44)	0.37 n.s.	3.83 (0.38)	3.61 (0.61)	2.88 *

将来設計能力	習慣形成系列	23 作業環境下で常に安全を意識することができる	3.74 (0.49)	3.45 (0.77)	5.00 * (0.55)	3.66 (0.59)	3.20 (0.93)	3.98 * (0.56)	3.74 (0.44)	3.59 (0.56)	1.69 n.s. (0.62)	3.83 (0.38)	3.61 (0.61)	2.66 * (0.46)
		24 健康保持を意識して、健康促進や病気予防に関する知識を身につける	3.43 (0.62)	3.07 (0.82)	5.15 * (0.46)	3.36 (0.60)	2.71 (0.86)	5.42 * (0.42)	3.41 (0.62)	3.19 (0.79)	1.22 n.s. (0.40)	3.52 (0.62)	3.35 (0.67)	1.94 n.s. (0.56)
		25 トイレが一人で利用できる	3.83 (0.47)	3.67 (0.65)	3.25 * (0.59)	3.87 (0.49)	3.72 (0.61)	2.46 * (0.74)	3.78 (0.50)	3.62 (0.74)	1.16 n.s. (0.49)	3.83 (0.43)	3.65 (0.63)	2.07 * (0.49)
	夢や希望系列	26 わやみに休まない（出席・出勤状態がよい）	3.78 (0.51)	3.41 (0.84)	5.00 * (0.39)	3.66 (0.59)	3.20 (0.93)	2.90 * (0.08)	3.74 (0.58)	3.35 (0.92)	3.43 * (0.81)	3.81 (0.38)	3.65 (0.60)	3.31 * (0.47)
		27 希望や願いの実現方法を考えることができる	3.28 (0.66)	2.78 (0.88)	6.55 * (0.49)	3.24 (0.73)	2.45 (0.96)	5.47 * (0.43)	3.26 (0.75)	2.69 (0.95)	3.38 * (0.59)	3.33 (0.51)	3.13 (0.58)	2.45 * (0.52)
		28 働くことにやりがいを感じることができる	3.64 (0.51)	3.16 (0.84)	6.61 * (0.41)	3.68 (0.47)	2.84 (0.98)	5.79 * (0.29)	3.67 (0.47)	3.33 (0.87)	2.79 * (0.47)	3.59 (0.57)	3.37 (0.67)	2.88 * (0.68)
意思決定能力	生きがい系列	29 「生きがい」を考えることができる	3.26 (0.66)	2.68 (0.90)	7.95 * (0.53)	3.19 (0.53)	2.36 (0.88)	6.11 * (0.27)	3.30 (0.85)	2.81 (0.98)	3.12 * (0.64)	3.30 (0.66)	2.91 (0.78)	4.60 * (0.69)
		30 将来設計に結びつく進路計画を行うことができる	3.18 (0.61)	2.58 (0.88)	7.62 * (0.40)	3.17 (0.56)	2.18 (0.91)	7.52 * (0.34)	3.07 (0.77)	2.70 (0.76)	2.60 * (0.55)	3.24 (0.56)	2.89 (0.77)	3.16 * (0.48)
		31 実現までの道筋を意識した目標設定ができる	3.18 (0.64)	2.69 (0.86)	6.54 * (0.47)	3.09 (0.54)	2.34 (0.82)	5.57 * (0.23)	3.07 (0.66)	2.52 (0.79)	3.09 * (0.21)	3.33 (0.69)	3.13 (0.74)	2.66 * (0.76)
	自己選択（決定・責任）系列	32 実習などの経験に基づき、自分の意思と責任で主体的に進路を選択する力を身につけることができる	3.31 (0.67)	2.68 (0.93)	7.36 * (0.39)	3.32 (0.62)	2.18 (0.91)	7.05 * (0.10)	3.19 (0.67)	2.78 (0.83)	2.66 * (0.47)	3.37 (0.70)	3.11 (0.76)	3.31 * (0.74)
		33 良かったことや改善点を振り返り、次の活動へ活かすことができる	3.58 (0.56)	3.30 (0.82)	4.76 * (0.63)	3.49 (0.54)	3.00 (0.88)	4.75 * (0.62)	3.48 (0.63)	3.22 (0.83)	1.76 n.s. (0.50)	3.72 (0.50)	3.63 (0.60)	1.43 n.s. (0.74)
		34 実習等を通して、客観的に自己を評価できる	3.33 (0.70)	2.89 (0.92)	4.83 * (0.31)	3.34 (0.66)	2.34 (0.90)	6.28 * (0.15)	3.04 (0.84)	2.96 (0.79)	0.37 n.s. (0.23)	3.48 (0.58)	3.37 (0.70)	1.40 n.s. (0.69)
作業能力	自己調整系列	35 実習等を通して、肯定的に自己を評価できる	3.48 (0.55)	3.00 (0.87)	6.01 * (0.31)	3.51 (0.50)	2.45 (0.92)	7.27 * (0.18)	3.41 (0.62)	3.26 (0.64)	1.44 n.s. (0.66)	3.50 (0.54)	3.37 (0.64)	1.43 n.s. (0.47)
		36 様々なトラブルに対しての対処方法を身に付ける	3.53 (0.56)	3.03 (0.78)	6.77 * (0.32)	3.49 (0.58)	2.77 (0.82)	5.53 * (0.28)	3.48 (0.63)	2.96 (0.74)	3.17 * (0.28)	3.59 (0.49)	3.30 (0.66)	2.93 * (0.39)
		37 円滑な人間関係の保ち方が分かる	3.63 (0.52)	3.28 (0.71)	5.75 * (0.44)	3.57 (0.54)	3.11 (0.78)	4.15 * (0.39)	3.70 (0.53)	3.37 (0.67)	2.79 * (0.51)	3.65 (0.48)	3.39 (0.64)	2.89 * (0.45)
	作業に関すること系列	38 作業について												
		(1) 作業内容が変更した場合、新しい作業内容や手順を覚えることができる	3.64 (0.51)	3.31 (0.77)	4.94 * (0.41)	3.64 (0.48)	2.93 (0.86)	5.22 * (0.17)	3.67 (0.47)	3.56 (0.57)	1.14 n.s. (0.56)	3.62 (0.57)	3.53 (0.62)	1.43 n.s. (0.76)
		(2) 道具や機械や材料の準備、後片付けができる	3.71 (0.47)	3.49 (0.74)	3.70 * (0.45)	3.66 (0.47)	3.27 (0.89)	3.02 * (0.27)	3.74 (0.44)	3.63 (0.55)	1.80 n.s. (0.82)	3.76 (0.48)	3.62 (0.61)	1.63 n.s. (0.52)
		(3) 道具や機械や材料の管理や手入れができる	3.45 (0.71)	2.99 (0.91)	5.55 * (0.42)	3.49 (0.65)	2.59 (0.94)	5.73 * (0.19)	3.52 (0.57)	3.42 (0.63)	1.36 n.s. (0.76)	3.36 (0.82)	3.13 (0.86)	2.03 * (0.63)
		(4) 道具や機械や材料を正しく使うことができる	3.71 (0.47)	3.47 (0.74)	3.85 * (0.35)	3.62 (0.53)	3.14 (0.87)	3.58 * (0.21)	3.78 (0.42)	3.78 (0.42)	0.00 n.s. (0.79)	3.78 (0.42)	3.60 (0.61)	1.94 n.s. (0.35)
		(5) 道具や機械や材料を大切に使うことができる	3.73 (0.48)	3.46 (0.77)	4.41 * (0.46)	3.70 (0.46)	3.25 (0.91)	3.41 * (0.23)	3.74 (0.44)	3.70 (0.53)	0.57 n.s. (0.78)	3.76 (0.52)	3.51 (0.69)	3.10 * (0.66)
		(6) 道具や機械や材料を注意して運ぶことができる	3.69 (0.46)	3.39 (0.77)	4.84 * (0.48)	3.62 (0.49)	3.11 (0.91)	3.96 * (0.35)	3.74 (0.44)	3.74 (0.44)	0.00 n.s. (0.81)	3.73 (0.44)	3.44 (0.68)	3.29 * (0.54)

*p<.05

注 項目の回答についての最大数であり、実際は学校全体：115～119人、小学部：42～46人、中学部：26～27人、高等部：44～46人である。

5. 事業所の必要度

知的障害のある特別支援学校高等部の生徒が、将来事業所で働くときに、事業所側が求める質問項目の内容必要度について、平均値及び標準偏差を算出した（Table 6 の事業所欄）。その結果、最も平均値が高かったのは項目 15-(8)「決まりや礼儀を守る」と項目 15-(9)「自分勝手な行動をしない」の 3.71 で、最も平均値が低かったのは項目 11-(3)「政治・経済・文化などの情報に興味をもつことができる」と項目 13「選挙権や選挙制度のしくみが分かる」の 1.50 であった。平均値の高い項目は基本行動に関わる内容が多かった。一方、通常、新聞やテレビのニュース番組から得るような情報を理解したり、計画したりする力については低い傾向があった。

必要度について、事業所規模（従業員数）の違いに差があるか検討した。項目ごとに t 検定した結果、全ての項目において事業所規模（従業員数）の違いによる有意差はなかった。一方、知的障害者を雇用した経験の有無の違いについては、雇用経験のない事業所が 3 件と少ないことから、分析の対象からは外すことにした。

6. 特別支援学校の重要度と事業所の必要度

特別支援学校全体の重要度の項目間の平均値は 2.66～3.97 で、事業所の項目間の平均値は 1.50～3.71 であることから、事業所の平均値のレンジが大きいたことが分かる。特別支援学校の重要度と事業所の必要度の平均値を比較したときに、項目ごとによる平均値の差は最小で項目 38-(4)

Table 6 A 特別支援学校全体（重要度）－事業所（必要度）

領域	系列	内容	学校全体n=120 ^注 平均値 S. D.		事業所n=14 平均値 S. D.		t値
人間関係形成能力	人とかかわり、自己理解・他者理解系列	1 実際の体験を通して、自分の得意・不得意が分かる	3.52	0.65	2.71	0.61	4.41 *
		2 生徒自身が、どのような仕事に向いているかが分かる	3.43	0.68	2.50	0.65	4.86 *
		3 生徒自身が自分の言動で相手に及ぼす影響について分かる	3.63	0.52	3.00	0.68	4.13 *
		4 他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容することができる	3.47	0.61	2.71	0.83	4.23 *
	協力・共同系列	5 集団内における自分の役割や関係性の理解について					
		(1) 多くの人が仕事を分担し、協力していることが分かる	3.47	0.61	3.00	0.68	2.71 *
		(2) 生産工程で仕事をそれぞれ分担し、責任をもって働いていることが分かる	3.57	0.58	3.21	0.70	2.12 *
	意思表現系列	(3) 他者と協力して活動に取り組むことができる	3.72	0.49	2.93	0.92	3.18 *
		6 「ありがとう」、「ごめんなさい」を言える	3.97	0.18	3.57	0.65	2.28 * n.s.
		7 仕事（作業）が終わったら報告をすることができる	3.90	0.30	3.64	0.50	1.89 n.s.
情報活用能力	挨拶・清潔身だしなみ、場に応じた言動系列	8 必要に応じた支援を求めることについて					
		(1) 話が分からないときは聞き返すことができる	3.80	0.40	3.29	0.47	4.45 *
		(2) 作業が分からないときは尋ねることができる	3.84	0.39	3.29	0.73	2.81 *
		(3) 自分の悩みを相談できる人をもつことができる	3.66	0.57	3.21	0.70	2.72 *
	社会資源の活用とマナー、法や制度の活用系列	9 場や状況に応じた適切な言葉遣いや行動について					
		(1) 身近な人に「おはよう」、「さようなら」などの挨拶をすることができる	3.88	0.33	3.50	0.76	1.83 n.s.
		(2) 場の雰囲気が分かる	3.29	0.62	2.43	0.76	4.77 *
		(3) 場や状況に応じた服装、身だしなみができる	3.68	0.48	3.36	0.84	1.42 n.s.
		10 電話のマナーが分かる	3.22	0.69	2.14	0.77	5.46 *
	将来設計能力	金銭の扱い、金銭の使い方と管理、消費生活の理解系列	11 情報収集の方法と活用について				
(1) 職業生活に必要な事柄を調べる方法が分かる			3.16	0.65	2.21	0.89	4.94 *
(2) 目的地までの情報（バス・電車の経路・運賃調べ）を調べることができる			3.35	0.59	2.71	0.83	3.66 *
(3) 政治・経済・文化などの情報に興味をもつことができる			2.73	0.76	1.50	0.52	5.82 *
12 自動車運転など職業によって資格が必要なことが分かる			3.14	0.69	1.71	0.61	7.41 *
習慣形成系列		13 選挙権や選挙制度のしくみが分かる	2.84	0.77	1.50	0.52	6.28 *
		14 年金、保険、手帳等の福祉制度のしくみが分かる	2.98	0.72	1.71	0.61	6.23 *
		15 社会生活上の規範意識について					
		(1) 目印で自分のものが分かる	3.76	0.43	3.50	0.65	1.45 n.s.
		(2) 自他のものが区別できる	3.90	0.30	3.57	0.65	1.88 n.s.
作業能力	夢や希望系列	(3) 物を無断で持って行かない	3.95	0.22	3.64	0.50	2.29 *
		(4) 道具を使ったら必ず返す	3.90	0.30	3.64	0.50	1.89 n.s.
		(5) 順番や交代の意味が分かる	3.88	0.33	3.29	0.61	3.55 *
		(6) 学習中（仕事中）騒がない	3.85	0.44	3.43	0.65	2.38 *
		(7) 約束を守る	3.91	0.32	3.64	0.50	1.95 n.s.
	生きがい・やりがい系列	(8) 決まりや礼儀を守る	3.90	0.33	3.71	0.47	1.44 n.s.
		(9) 自分勝手な行動をしない	3.87	0.40	3.71	0.47	1.22 n.s.
		16 所有するお金を計画的に消費することができる	3.55	0.55	2.43	0.65	7.11 *
		17 労働と報酬の関係が分かる	3.38	0.58	2.79	0.70	3.56 *
		18 労働時間、賃金、休暇などの基本的労働条件について分かる	3.13	0.63	2.71	0.83	1.84 n.s.
意思決定能力	目標設定系列	19 様々な職業が社会や生活に果たしている役割が分かる	3.13	0.67	2.36	0.84	3.98 *
		20 いろいろな職業の名前が言える	2.66	0.74	1.64	0.50	5.00 *
		21 仕事の内容と自分の分担する役割が分かる	3.54	0.56	3.14	0.66	2.46 *
		22 生徒に分担された仕事は、責任をもって最後までやり遂げる	3.78	0.46	3.43	0.65	1.95 n.s.
		23 作業環境下で常に安全を意識することができる	3.74	0.49	3.57	0.51	1.22 n.s.
	自己調整系列	24 健康保持を意識して、健康促進や病気予防に関する知識を身につける	3.43	0.62	2.93	0.73	2.84 *
		25 トイレが一人で利用できる	3.83	0.47	3.50	0.65	1.86 n.s.
		26 むやみに休まない（出席・出勤状態がよい）	3.78	0.51	3.57	0.51	1.41 n.s.
		27 希望や願いの実現方法を考えることができる	3.28	0.66	2.43	0.51	4.62 *
		28 働くことにやりがいを感じるができる	3.64	0.51	2.71	0.61	6.25 *
作業能力	自己選択（決定・責任）系列	29 「生きがい」を考えることができる	3.26	0.66	2.43	0.76	4.34 *
		30 将来設計に結びつく進路計画を行うことができる	3.18	0.61	2.43	0.76	4.18 *
		31 実現までの道筋を意識した目標設定ができる	3.18	0.64	2.43	0.51	4.18 *
		32 実習などの経験を基に、自分の意思と責任で主体的に進路を選択する力を身につけることができる	3.31	0.67	2.57	0.51	3.97 *
		33 良かったことや改善点を振り返り、次の活動へ活かすことができる	3.58	0.56	2.86	0.66	4.45 *
	自己調整系列	34 実習等を通して、客観的に自己を評価できる	3.33	0.70	2.57	0.51	3.90 *
		35 実習等を通して、肯定的に自己を評価できる	3.48	0.55	2.50	0.52	6.37 *
		36 様々なトラブルに対しての対処方法を身に付ける	3.53	0.56	2.50	0.52	6.48 *
		37 円滑な人間関係の保ち方ができる	3.63	0.52	2.64	0.50	6.80 *
		38 作業について					
作業能力	作業に関すること系列	(1) 作業内容が変更した場合、新しい作業内容や手順を覚えることができる	3.64	0.51	3.36	0.50	1.94 n.s.
		(2) 道具や機械や材料の準備、後片付けができる	3.71	0.47	3.36	0.50	2.66 *
		(3) 道具や機械や材料の管理や手入れができる	3.45	0.71	2.86	0.95	2.83 *
		(4) 道具や機械や材料を正しく使うことができる	3.71	0.47	3.57	0.65	0.80 n.s.
		(5) 道具や機械や材料を大切に使うことができる	3.73	0.48	3.36	0.50	2.74 *
		(6) 道具や機械や材料を注意して運ぶことができる	3.69	0.46	3.50	0.52	1.42 n.s.

* p<.05

注 学校全体のnは項目の回答についての最大数であり、実際は116-120人である。

「道具や機械や材料を正しく使うことができる」の0.14、最大で項目12「自動車運転など職業によって資格が必要なことが分かる」の1.43と大きな差がある。特別支援学校の重要度と事業所の必要度は全項目において、特別支援学校の方が事業所よりも高得点を示しており、両者で平均値の差が1.0以上の項目は、8項目であった。

特別支援学校全体の重要度と事業所の必要度の平均値の差をt検定した結果、全59項目中42項目で5%水準の有意差があった。特別支援学校全体は重要度、事業所は必要度で観点が異なることから結果を単純に比較するには慎重にならなければならないが、特別支援学校と事業所の項目ごとの認識の傾向を把握することはできよう。有意差がないのは平均値の高い項目が多く、基本行動に関する内容が多い特徴があった。また、有意差がなく平均値が低かったのは、項目18「労働時間、賃金、休暇などの基本的労働条件について分かる」だけであった。特別支援学校の重要度の平均値が3.8以上と極めて高い項目で有意差があったものについては、事業所の平均値が低いわけではないが、特別支援学校の平均値が高すぎるために有意差が出たと言える。

考察

特別支援学校全体の重要度で最も平均値の高かったのは、項目6『「ありがとう」、「ごめんなさい」を言える』で、基本行動にあたる内容であった。他の基本行動にあたる内容の項目7、8-(1)～(2)、9-(1)、15-(1)～(9)、25もおおむね平均値が3.8以上と高かった。このことから、特別支援学校では学部を問わず基本行動を確立する必要性を極めて高く認識していると考えられる。また、作業能力の領域の項目も平均値は3.45～3.73と高い水準で、重要視していると言える。一方、平均値が2点台で“あまり重要と思わないーやや重要と思う”に該当する項目は、11-(3)「政治・経済・文化などの情報に興味をもつことができる」、13「選挙権や選挙制度のしくみが分かる」、14「年金、保険、手帳等の福祉制度のしくみが分かる」、20「いろいろな職業の名前が言える」で公民的資質に関わる内容であった。これらは、日常生活の経験で得ることが難しい内容であり、必要とされる場面の頻度など他の項目と比較したときに重要度が低くなったと考えられる。

特別支援学校の取組状況については、多くの項目で学部間差が認められた。平均値が高い3点台後半の項目は、基本行動の内容であり、項目7「仕事（作業）が終わったら報告をすることができる」を除き学部間差がないのが特徴であった。項目7の標準偏差は小学部が最も高いことから、仕事（作業）という表記について、小学部の回答者が「仕事（作業）」を学習活動と捉えるか、中学部から始まる作業学習の作業と捉えるかの解釈の違いから回答が分かれた可能性があり、平均値が中学部や高等部と比べて低くなったと推察される。一方、取組状況が平均値3点に達しない項目は、自己理解や自己実現、社会制度に関することなどであり、障害特性が関係したり、特別に学習しなければ身につけることが困難だったりする内容が多い。これらの内容は、認知発達との程度が関係し、学部間関係で小学部と中学部や高等部の間で差があることから、中学部や高等部での学習に重点が置かれていると言える。作業能力の領域では、6項目全てにおいて中学部

が最も高くなっており、作業学習は中学部から学習が始まるため基本的なことから特に力を入れて指導していると考えられる。

特別支援学校の重要度と取組状況について比較をする。重要度は学部間で差がなく、取組状況では学部間で差があったのは、質問項目の内容が、高等部段階での生徒を想定しており、項目によっては、学部や学年、児童生徒の発達段階による、取組に適した時期があると考えられる。重要度と取組状況の関係について、対応のあるt検定による分析では差があると言える結果であったが、教育実践において、重要度は一般的には目指す理想の状態を表し、取組状況は実際の状況を表すと考え、重要度に対して取組状況の平均値が低くなることは容易に想定できる。

特別支援学校全体の重要度と取組状況の平均値には、中程度の相関が認められており、重要度の平均値が3.8を超える特に重要と思っている項目は意識して取り組んでいることが分かった。重要度がやや低い2点台の項目は、取組状況も2点前後とあまり取り組まれていないことが分かる。重要度も取組状況も3点未満の4項目は、政治・経済・文化、選挙制度、福祉制度、職業種の知識に関することなど公民的資質に関わる内容で、世間一般で政治離れが言われるように、教師自身が感じている日常生活の中での必要性の程度が反映した結果ではないかと考えられる。また、重要度の平均値が3点を超えて重要性を感じている項目でも、取組状況の平均値が2点台と意識した取組ができていないものが16項目あった。この16項目のうち1項目は中学部と高等部が、6項目は高等部が取組状況の平均値3点を超えていた。このことから、質問内容が、特別支援学校高等部卒業後に必要とされる内容であったり、学部によっては質問内容が直接学習活動と結びつかないことが反映された結果であると捉えることもできる。一方、残りの9項目は全ての学部が3点未満であり、項目の特徴として、項目19「様々な職業が社会や生活に果たしている役割が分かる」や項目30「将来設計に結びつく進路計画を行うことができる」など「働くことの理解」に関わるような思考力や理解力を伴うものが多い。教師の多忙な業務の中、指導における優先順位の関係で重要と思っていながらもなかなか意識して取り組むことの難しい現状があると言えよう。

特別支援学校全体の重要度と事業所の必要度についての比較では、Figure 2に示すとおり特別支援学校全体の重要度と事業所の必要度は全体的には、同様な傾向にあると言える。社会生活上の規範意識と直接作業に関係する項目は、両者とも高い傾向であったが、学校が重要としているコミュニケーション面や作業と直接関係のない項目については、両者の認識の程度の差は大きい。これは、一般企業が就職までに身につけていることを望む課題は、日常生活を行う上でごく基本的なこと（岩手県総合教育センター，2007）という報告と一致する結果である。

毎日の教育活動の中で実践しているキャリア教育や指導内容について特別支援学校としての重要度の認識は、知的障害者が働くときに事業所側が求める力（必要度）と共通するところが多く、教師一人一人の教育活動に対する多様な考えがある中で、特別支援学校全体での取組む方向としては、社会のニーズに沿っていると言えよう。しかし、向後（2014）によると『働く意思があ

る（＝働きたい）」場合であっても、「働くことの理解」が十分でない場合、就労後に不適切な行動が選択されることがある』と述べており、前述した全ての学部で取組状況が3点未満である「働くことの理解」に関わる項目が一般就労後の勤続年数を左右する要因の一つとすると、今後の課題としては「働くことの理解」に関わる項目の重要度を取組状況をどれだけ近づけていけるかが鍵となるのではないかと考えられる。

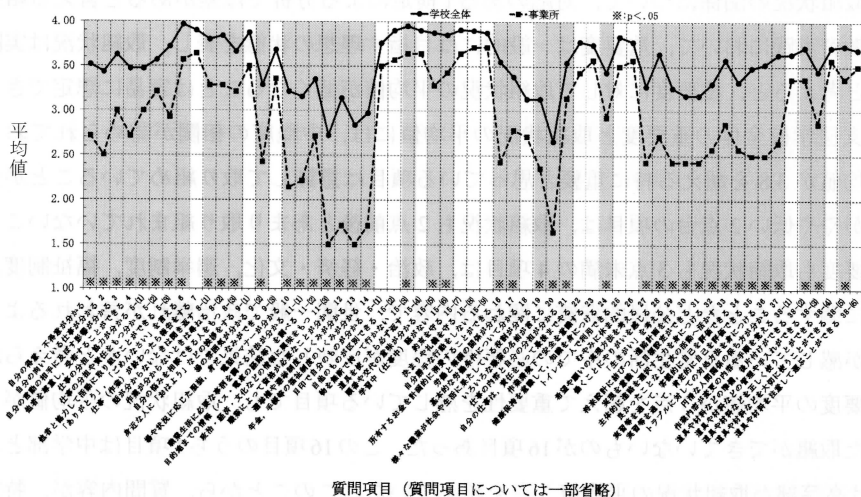


Figure 2 A 特別支援学校全体（重要度）－事業所（必要度）

最後に本研究は、特別支援学校の知的障害教育における一般就労を目指す児童生徒を対象として指導内容の重要度の認識と取組状況を比較し、また、知的障害者を雇用するときの事業所のニーズを把握することで、特別支援学校の教育実践と事業所のニーズについての比較検討を目的としたものである。今回は、数ある特別支援学校のうち1校（120人）を調査対象としており、サンプリングの観点からは、特別支援学校全体の結果と判断することは難しいが、一定の傾向を示しているものとして有用であると考えられる。また、事業所も調査協力校の実習先を対象としているためサンプル数が14件と少なく、事業所全体の傾向であると一般化することは難しい。しかしながら、今回の結果は、先行研究（日本障害者雇用促進協会障害者職業総合センター、2002）の事業所の要求水準の高い課題と共通する部分が多いことから、知的障害者の雇用について検討するときの一資料として活用することはできよう。

事業所は、就労を希望する生徒に対して働くときに直接必要とされることを求めているが、学校では一般就労に結びつくことだけを指導・支援するわけではない。働くことへの支援を通して、生徒の卒業後の生活における質を高めるために福祉制度や社会生活で必要となる法制度の理解、余暇活動への取り組みも必要である。今後は、これらのことも踏まえて、就労支援のあり方を検討していく必要がある。

引用文献

- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（編）（2011）特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック ジ
アース教育新社
- 福井信佳・橋本卓也（2015）知的障がい者の離職要因に関する研究 日本職業・災害医学会会誌, 63(5), 310-315.
- 石山貴章, 矢野川祥典, 宇川浩之, 田中誠, 岡田信吾, 下山真衣（2015）特別支援学校「キャリア教育」実践に關
する教員の意識調査（Ⅰ）, 就実論叢, 44, 215-226.
- 岩手県総合教育センター（2007）キャリア教育の視点からみた授業づくり 平成19年度特別支援教育ステップアッ
プ研修講座Ⅲ
- 菊地一文（2016）特別支援教育における「働く」ことへの支援：キャリア発達支援の視点から 教育と医学, 64(4),
281-289.
- 向後礼子（2014）発達障がいのある人の学校から就労への移行支援並びに就労後の職場適応支援の課題 日本労働
研究雑誌, 56(5), 76-84.
- 厚生労働省（2014）平成25年度障害者雇用実態調査結果, 13
（<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11704000-Shokugyouanteikyokukoureishougaiyoutaisakubu-shougaishakoyoutaisakuka/gaiyou.pdf> 2016年9月5日）
- 文部科学省（2009）特別支援学校高等部学習指導要領, 108
- 文部科学省（2016）特別支援教育資料（平成27年度）
（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1373341.htm 2016年9月2日）
- 森脇 勤（2014a）地域協働の中でキャリア発達を促す意味 キャリア発達支援研究, 1, 41-47.
- 日本障害者雇用促進協会障害者職業総合センター（2002）知的障害者の就労の実現のための指導課題に関する研究,
調査研究報告書No.50.
（<http://www.nivr.jeed.or.jp/research/report/houkoku/houkoku50.html> 2016年5月13日）
- 上岡一世（2013）キャリア教育を取り入れた特別支援教育の授業づくり 明治図書

参考文献

- 森脇 勤（2014b）キャリア発達を促す地域協働型活動の創造 特別支援教育研究, 687, 16-18.
- 芝山泰介（2016）京都市内の総合支援学校の取り組み 特別支援教育研究, 707, 16-19.
- 染川加奈子（2014）企業と連携した作業学習：デュアルシステムによる実践を通して 第62回鹿児島県特別支援教
育研究大会大島大会大会要録, 51-54.

付記

本調査の実施にあたり、K 県立 A 特別支援学校と A 校の実習先の皆様方に御協力をいただきました。ここに記して深く感謝の意を表します。